

令和3年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書
フリーペーパーで魅力を発信
～レトロな北浜地域とモダンな大学生との融合～

代表 荒木 海斗（経済学部 2年生）

（1）目的と概要

本プロジェクトの目的は大きく2つ挙げられる。1つ目は、活動を通して私達が活動を行う香川県高松市北浜町並びに商業施設北浜 alley の集客力を向上させることである。現在、北浜では新型コロナウイルスの影響により客数が減少している。個人事業主が多い北浜ではこの影響が大きく多くの店舗が苦しい経営を強いられている。このような現在の課題の解決に繋げることが1つ目の目的である。2つ目は、活動を通してメンバー自身が活動地域について知識を増やし、理解を深めることで今後の活動において正しい知識を活用できるようにすることである。私達のプロジェクトは2020年10月に発足したばかりであり、メンバーが十分に地域を理解出来ていないという課題を抱えている。今後、活動を行う中で地域理解を深めることは地域住民から信頼していただき円滑に活動を進めていくために必要不可欠な要素である。したがって私達は本プロジェクトを通して地域理解を深めることを2つ目の目的とした。

次に活動内容としては、まず店舗の方々や北浜 alley を管理する北浜 alley 株式会社の方々へのインタビュー、文献調査を実施し、北浜の歴史や北浜 alley 創設の経緯、また北浜という地域について理解を深めることができた。その後、アウトプットとして配布型のフリーペーパーを制作し、北浜の店舗や大学、公共施設に置いていただくことで、北浜の集客力の向上に繋げることができたと考えている。フリーペーパーは年2回の頻度で発行し、それぞれ異なるテーマを持って制作することで、より多角的に地域を理解することに繋げることができたと考えている。

（2）実施期間

2021年6月1日から2022年3月10日まで

（3）成果の内容

1) プロジェクトの具体的な成果

プロジェクトの具体的な成果としては、フリーペーパーの1号と2号の発行である。このプロジェクトを通して作成したフリーペーパーを発行することで、より多くの人々へ活動地域である高松市北浜町の特徴や魅力を伝えることができた。また、集客力の向上が期待できる。これは課題であった客数の減少への有効な解決策となった。



大学の「地域に根差した大学」という教育理念に沿って、学生が地域活性化に積極的に取り組んでいることをアピールすることができた。また、本プロジェクトでは、学生が主体となり、自らの力で企画・運営を行い、地域の方との交流を深めることから、香川大学の教育目標にある豊かな人間性・倫理性を備えた人材や国際的に活動できる人材の育成に繋げることができた。

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響

このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響としては、高松市の北浜地区を盛り上げる役割を果たすことができた。高松市役所公聴広報課が発行している「広報 高松」で北浜町の紹介及びレンタサイクルの紹介をさせていただいた。このことは、北浜地区の地域社会における広報的役割として活性化に携わることができたと言える。またこのプロジェクトで作成した地域フリーペーパーLink.はテレビ瀬戸内の情報番組にも取り上げていただき、さらなる知名度アップに貢献できた。



No.1697

(4) プロジェクトから学んだこと

実際にプロジェクトを実施した上で今後改善していききたい点が2つほどある。1つ目はスケジュールが当初の予定より遅れてしまったことである。当初、フリーペーパー第1弾を10月、第2弾を1月に発行する予定であった。しかし、実際には第1弾を12月、第2弾を2月に発行した。このように遅れた原因には新型コロナウイルスによる活動の制限といった影響も挙げられるが、フリーペーパー制作という初の試みに対しての事前の準備、スケジュール管理が出来ていなかったという点も挙げられる。第1弾に比べて第2弾は制作に慣れてきたこともあり、短期間で完成させることができたが、余裕を持って進めることはできなかった。そのため、今後はこれまでの反省を活かしたスケジュールを組むとともに、フリーペーパーの完成度の向上に繋げていきたい。2つ目はメンバー間の負担が偏ってしまったことである。フリーペーパーの紙面を編集することができるメンバーが数人しかおらず、その他のメンバーと比べて大きな負担が掛かってしまった。これに対しては、今後、編集ソフトを扱える技術を持ったメンバーを増やすことに取り組む他に、メンバー編成を見直すことにも取り組んでいきたい。

今回のプロジェクトでは改善点も見つかったが、同時に多くの気づきもあった。特に印象に残ったことは、取材に伺った北浜の方々の真剣な思いである。学生の立場でありながら、そうしたプロの想いを聞くことが出来たことで、フリーペーパーの制作においてもより良いものを作らなければならないという責任感を持って取り組むことが出来た。結果として、北浜の方々からたくさんのお褒めの言葉を頂いたこと、以前より信頼を獲得することが出来たことは大きな喜びであった。今後も周囲の期待に応えられるよう取り組み続けていきたい。

(5) 実施メンバー

代表：経済学部	2年	荒木海斗
創造工学部	4年	津村祥平
創造工学部	3年	横川拓海
経済学部	2年	雨提麻衣
経済学部	2年	石川敦也
経済学部	2年	井上智尋
経済学部	2年	大森美紀
経済学部	2年	川上満里奈
経済学部	2年	佐野愛菜
経済学部	2年	洲脇ちひろ
経済学部	2年	劔持怜歆
創造工学部	2年	大久保祐太
教育学部	2年	村上巧海
経済学部	1年	草加真希
経済学部	1年	黒田雅貴
経済学部	1年	堺愛璃
経済学部	1年	鈴木美咲
経済学部	1年	南羽寧
経済学部	1年	渡邊萌水
法学部	1年	濱田日那
農学部	1年	齋藤美優
創造工学部	1年	山口実愛
創造工学部	1年	山本心優